

筑北三村地域自立支援協議会 部会・プロジェクト議事録

部会・プロジェクト名 第1回 共生部会	開催日:令和7年6月11日(水) 時間:14:00~16:20 場所:生坂村高齢者生活福祉センター
参加者・構成機関名 (10名参加)	
生坂村健康福祉課(部会長竹内) 麻績村住民課(西村)	
筑北村総合相談支援センター(清水) 麻績村社会福祉協議会(塚原)	
生坂村社会福祉協議会(丸山) 宅幼老所茶の間(吉池)	
キノネアク相談所(小泊) 事務局(藤澤)	
講師:長野県社会福祉協議会 平塚直也氏、西澤智美氏	
次第	
1.学習会「地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制とは」	
2.今年度テーマ	
3.年間予定	
次回	
9月24日(水)14:00~	

会議内容

1.学習会

「地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制とは」

講師:長野県社会福祉協議会 総務企画部 企画グループ 平塚直也 氏

ファシリテーションラフィッカー 西澤智美 氏

①学習会 (配布資料あり)

- 1) 地域共生社会とは
- 2) 新しい概念
- 3) 制度の変遷等
- 4) 地域における住民主体の課題解決

②意見交換

- ・ 生坂おとこ塾は最初、男性の参加が無かった。長野大学と話し合う場ができる等、無かったものをつくるのは大変。同じ困り感を持っている人から意見を貰っている。コーディネーターは後押しをする人であり、我が事感につながっている。
 - ・ 人が集まる場は仕掛けをする場になる。ご飯を食べる場所や薬局等もその一つ。
 - ・ サロンやバザーをしてきているが段々人が集まらなくなってきた。どうやったら集まる場になるか。
- 「どうやったら集まるか」ではなく、「何のために、誰のために」が大事。つくり方が違う。例えば必要に思う目の前のその人のためにやるとなると人は集まってくる。役割が無いと集まりは減っていく。やって貰うことを作る、何のために集まって貰うかを考えるとよい。
- 生坂の「紬」は集まるだけだが、参加者はずっと喋っている。送迎もしていないが20名前後集まり、何に困っているか気づかされるサロンになっている。
- ・ 地形的な問題があるが三村で協力し共有して使える資源があると良い。
 - ・ 本人の家族にも障がいがある時、ケアマネとして出来ることはしたいと思うが出来ない時につなげていくことができる事が大事だと思っている。自分ができる事を周りと相談しながらやっていきたい。
 - ・ チーム連携が大事と思っている。日頃の実践にいかしていきたい。

- ・ 担当を超えて解決していくことが大事と思っているが、情報共有はあっても自分事として考えたい。
- ・ 関わっていないと思っていても、みんなやっていると思う。事業としての補助金云々ではなく実践をしているのではないか。

③重層的支援体制整備

- ・ 生坂村は重層的支援体制整備事業の検討会議を始めている。事例を交えながら勉強ができる事業開始につながるとよい。

→全国で470か所、事業になっているが、事業交付金経が減額になり経済的メリットが見えなくなっている。予算減額にたいする要望書が提出され8月厚労省の検討会で方向性が出る見通し。

→新しく事業を始めるにあたり事業の減算がある等正確な情報をスピーディに得たい。

2.今年度テーマについて

重層的支援と共生社会についてより学びを深める。

3.年間予定

第2回 9月24日(水)14:00~

第3回 2月20日(金)14:00~